

鹿児島県

[編集・発行] 鹿児島県奄美パーク
鹿児島県奄美市笠利町節田1834
TEL.0997-55-2333
FAX.0997-55-2612
<http://www.amamipark.com/>

vol. **8**
2006.12

奄美パークだより

◆奄美の郷企画事業

◆田中一村記念美術館企画事業

◆奄美パーク応援隊紹介

◆わきや島自慢

◆常設展示室

奄美の郷企画事業

あまみっ子フェスタ

平成18年5月4日、多目的広場で恒例行事「あまみっ子フェスタ」を開催しました。

オープニングは節田小学校のアマンディー太鼓で始まり、粘土遊びや手作りで楽しむ昔あそび、ニュースポーツの紹介・〇×クイズなど多彩な催しがあり子供たちは思い思いに楽しんでいました。



ネリヤカナヤフェスタ

平成18年6月25日～7月31日の期間中「ネリヤカナヤフェスタ」を開催しました。初日は、奄美の海の魅力を来園者に紹介するイベントとして、オープニングは勇壮な道の島太鼓で開演し、フラダンスや日舞・琉舞、伊津部小の児童によるさざ波バンド、島唄やピンポンズによるバンド演奏でステージが盛り上がりしました。

また、奄美自然観察の森の宇都宮英之さんによる海の学習塾と題し、子供を対象に「海の話やミニ貝殻探しと星砂探し」を通し、自然の大切さを伝えました。参加者は真剣な眼差しで聞き入っていました。

このほか、期間中は実物大のリユウグウノツカイ写真展示や奄美十景写真・図画展などを行い、来館者大変好評を得ました。



サマーコンサート

平成18年8月20日に「古来から今ぬ世へPART5」として、多くの観光客や帰省客などが訪れる夏休みに、島唄や奄美芸能で構成されるイベントを開催しました。

オープニングは地元唄者10人が「朝花節」を唄掛けで披露し、今回は新たな企画として親子・夫婦などで島唄を歌い継ぐ楽しさを表現しました。また、教訓歌や奄美市名瀬以北の「カサン節」と奄美市住用町以南の「ヒギヤ節」の歌詞や曲調の違いを紹介しました。奄美高等学校郷土芸能部「太陽の子(ていだぬくわ)」は、八月踊りや六調で会場を盛り上げ、来場者は奄美らしい夏のイベントを満喫しました。



文化講演会

平成18年9月24日、奄美パーク開館5周年記念として、宝くじ普及広報事業による文化講演会「シマユムタ伝える文化講演シンポジウム」を開催しました。

日本民謡フェスティバル2006でグランプリに輝いた中村瑞希さんの島唄に始まり、島口教室では奄美の各島々の出身者による独特の言葉や島特有の発音が披露され、島ごとの言葉の違いを聞き比べました。最後は、社団法人落語協会のメンバーによる寄席があり、落語で笑い、紙切りで驚き、大喜利で感心し、会場を訪れた聴衆は、笑いの連続で楽しいひとときを満喫しました。



5月ライブステージ

平成18年5月21日に「でい・まーじんま」と題し、島んちゅ会26名が出演し、島唄をはじめ、舞踊・三味線合奏や胡弓演奏などバラエティーに富んだ演目構成で魅了し、ファイナレは、島んちゅ会・ん？あなんだろが！のメンバーが、六調を披露し、観客と出演者が一体となり、楽しいステージとなりました。



7月ライブステージ

平成18年7月16日、龍郷町島唄保存会による「どう★きばていによ!!唄あすび」を開催しました。29名の唄者が島唄を披露し、合間には、楽しい踊りが入り、最後は「島のブルース」「六調」と続き、来場者から盛んな拍手が送られました。



田中一村記念美術館企画事業

原千代子写真展

～ 奄美 花めぐり ～

(一村の見つめた奄美の植物たち)

平成18年3月26日から4月9日まで、原千代子写真展を開催しました。

奄美の民俗学の草分け的存在である里山勇廣氏との出会いにより、植物にも詳しくあった氏と共に奄美の植物を調べました。氏が他界した後、氏の志を受けて、自分なりの調査を続けるとともに友人からカメラの手解きを受け、奄美全土を歩き回り、奄美の固有種・希少種の植物も撮り続けています。

入館者は、珍しい奄美固有の植物の写真を見て感動し、奄美の自然の豊かさ、素晴らしさを堪能していました。



大江弘治洋画展

～ 南の風にのせて ～

平成18年4月16日から4月30日まで、奄美市名瀬在住の大江弘治洋画展を開催しました。大江氏は、50歳を過ぎてから奄美文化センターでの絵画教室で本格的に油絵を習い始め、奄美を題材にした作品を制作し、今回27点を展示しました。

大江氏は、奄美に生まれ、奄美の自然をこよなく愛し、奄美に生まれ育った事を誇りに思える作品を表現したいと思い描きました。入館者は、大江氏の描いた作品を見て、大勢の方々が奄美の持つ自然の豊かさや、昔から伝わる伝統行事のすばらしさを再認識していました。



滝田勇写真・デザイン展

～ imagination ～

平成18年5月3日から5月21日まで、滝田勇写真・デザイン展を開催しました。滝田氏は、高校時代から写真を始め、上京した後も写真を撮り続け、写真歴35年になる方で、今回は47点の作品を展示しました。奄美の風景を中心に人物・植物を多く取り入れ、特に奄美の海の写真を主に撮られていて、この他に、現像処理(データ処理)を施した合成写真もあり、幻想的な作品も好評でした。

滝田氏の写真を通して、奄美の素晴らしさを大勢の方々が感動し、合成写真の面白さを実感していました。



「稲光政・中尾正子写真 二人展」 ～加計呂麻島の風景～

平成18年5月28日から6月18日まで加計呂麻島在住の、稲光政・中尾正子写真二人展を開催しました。銀塩フィルムで写した加計呂麻島の風景写真87点を展示しました。稲氏は、「今回は芸術作品としてではなく、観光写真展としてより多くの方々に加計呂麻島の魅力を感じる存分感じていただきたい。」と語っていました。

また、今回の写真展は梅雨時期でもあったため、入館者が梅雨で見られなかった真つ白な砂浜や真つ青な海の写真を見て感動していました。



田中一村新寄託作品と 一村の写真展 一村シンポジウム

平成18年9月3日から9月18日まで企画展として、今回新たに川畑みのり氏、保宜夫氏、牧野信久氏、大濱民朗氏から一村の作品34点を寄託していただいた作品の中から18点と写真10点を展示しました。一村の絵や写真のとらえ方は、自然のすこさをうまく表現しており来場者に大きな反響を呼びました。

また、9月10日には一村シンポジウムが行われ、オーブニングはパイプオルガン奏者である酒井多賀志氏の演奏で始まり、元南日本新聞記者で『アタンの画帖』の著者である中野惇夫氏と前田中一村記念美術館学芸専門員の西村康博氏をパネラーとして「奄美での一村」「一村が世にでるまで」のタイトルで宮崎緑館長及び前村卓巨学芸専門員とともにパネルディスカッションを行いました。中野氏は、一村との出会い、そして西村氏との出会いの話や初めて行われた遺作展の話など熱く語りました。



坂口登展「2つの国に 生きて」 ～地球・美・光～

平成18年9月23日から10月14日まで、田中一村記念美術館開館5周年記念企画としてニューヨーク在住の坂口登展を企画展示室で開催しました。今回の作品は300号の大きさの絵が6点・60号の大きさの絵を3点展示しました。いずれもアクリル絵の具を使用し、一つは筆を振つての点描で描かれた抽象的な絵ともう一つは草花・鳥・果物等を鮮やかに描かれた絵を組み合わせた作品で、その鮮やかさに多くの方が感動しました。

また、期間中さまざまなイベントがあり、初日は、朝崎郁恵さんの島唄やアートトーク、絵画と音楽と舞踊によるコラボレーションなどがあり、10月1日は、大鼓や石笛の演奏などがあり観客を魅了しました。



奄美パーク応援隊の紹介

奄美パーク応援隊では、以下の4つの活動を中心に行っています。

奄美パーク
応援隊

1 展示案内ガイド

奄美の郷及び田中一村記念美術館の展示の案内をします。

2 手熟ガイド

奄美の三味線、島唄、機織りなどを実際に行いながらガイドをします。

3 園芸サポーター

奄美パーク内の園地の植物を管理します。

4 一村サポーター

田中一村記念美術館の企画展示室の企画展示作業のサポートをします。

現在48名のボランティア隊員の皆様に奄美パークのお手伝いをしていただいております。奄美パークにお越しの際に見かけたら、声をかけてください。応援隊のネームホルダーが目印です。

また、興味がある方は、奄美パーク応援隊事務局までお問い合わせ下さい。

奄美パーク事務局

TEL0997-55-2333

FAX0997-55-2612

中村

ワキヤ島自慢

史跡と花が語りかけるメッセージ(喜界町)

喜界空港から隣接する県道を渡り中里集落へ少し入ると、民家の敷地内に太平洋戦争中に造られた、鉄筋コンクリート造りの地下壕と見張所を備える戦闘指揮所跡がある。当時、喜界島は陸海軍部隊の基地として五千人余りの兵士が常駐し、海軍の飛行場があった。

滑走路のある湾・中里集落は戦時中米軍の爆撃が最もひどく、昼間の空襲で爆破された滑走路の着弾跡は夜間、集落民総出で民家の石垣を運び、修復作業が行われたという。そのため、この集落には喜界島の文化遺産ともいえるサンゴの石垣が少ない。

初夏、滑走路脇にテンニンギクが花の絨毯を敷きつめる。島の人たちに「特攻花」と呼ばれるこの花は、大戦中この基地から死の飛行に飛び立つ若き特攻隊員たちに、島の娘たちが情をこめて贈った花束の種子が落ち、この地に繁殖したといわれる。

喜界空港の周辺には、ひっそりと平和を語り継ぐ語り部たちがいる。



海軍航空基地戦没者慰霊の碑



テンニンギク (特攻花)



戦闘指揮所跡

「倣」で極めた襖絵と新春の彩り

■展示期間／平成18年12月21日(木)～平成19年3月21日(水)

田中一村は50歳の時に奄美に移り住み、紬染色工として生計をたて、蓄えができたなら絵を描くという生活を繰り返し、名瀬市有屋の借家で、誰にも看取られず69歳の生涯を終えた。今回、新しく寄託いただいた襖絵から「倣」シリーズを検証してみる。

常設展示室 1

幼年期～青年期・明治41年(1908年)～昭和13年(1938年)

◆大人顔負けの天才的な画才を現した9歳から10代にかけての色紙。

画題	種類	制作年代
白梅	色紙	大正6年(1917年、9歳)
喜呈芳色	色紙	大正13年(1924年、16歳)
芙蓉図	色紙	昭和2年(1927年、19歳)
書	色紙	昭和2年(1927年、19歳)

◆千葉時代における一村の芸術の一面を知りうる貴重な作品で、花鳥画では完成度が高く秀逸な作品。

画題	種類	制作年代
梨花に高麗鶯	軸装	昭和20年代中期、新寄託作品
桐の花とオナガ	軸装	昭和20年代中期、新寄託作品

◆個人からの依頼で、約20点程の南画作品の模写を行っている。
作品には倣うという意味で「倣…」と入れてあるが、確かな技量が感じ取れる作品。

画題	種類	制作年代
倣蕪村③	軸装	昭和22年以降(1947年、39歳以降)
倣木米②	軸装	昭和22年以降(1947年、39歳以降)
倣鉄斎①	軸装	昭和22年以降(1947年、39歳以降)

常設展示室 2

千葉寺時代・昭和13年(1938年)～昭和33年(1958年)

◆30歳で千葉に移り住み、50歳で奄美に渡るまでの20年間、農業をしながら身近な風景や自然を描いた。

画題	種類	制作年代
秋色③	額装	昭和20年代
菊花図	額装	昭和30年頃
千葉寺風景①	額装	昭和20年代
千葉寺の春(馬のいる風景)	額装	昭和20年代

九州・四国の旅 昭和30年(1955年)

◆旅先を描いた作品は明るく躍動感にあふれ、奄美行きのきっかけともなった。

画題	種類	制作年代
平和な朝	色紙	昭和30年頃、新寄託作品
由布風景	色紙	昭和30年(1955年、47歳)
高千穂②	色紙	昭和30年(1955年、47歳)
平瀬	色紙	昭和30年(1955年、47歳)

常設展示室 3

画題	種類	制作年代
紅梅丹頂図	額装	昭和35年頃

◆奄美の自然を描き、一村芸術が華開いた作品の数々。奄美の杜シリーズは11点、その他の大作も含めても16点しかなく、作品保護のため複製と交互に展示している。

画題	種類	制作年代
ソテツ残照	額装	昭和40年代：複製
奄美の杜⑪ ～ソテツとアダン	額装	昭和36年(1961年、53歳)
パパイア	額装	昭和35年(1960年、52歳)
奄美の杜⑩ ～ヒロウとコンロンカ	額装	昭和37年(1962年、54歳)
ダチュラとアカショウビン	額装	昭和42年(1967年、59歳)：複製
花と鳥(未完)	額装	昭和50年頃

◆家族への思い、平和への祈りなど、さまざまな思いを込めて、観音像を描いた。

画題	種類	制作年代
崖上観音像図	軸装	昭和15年頃(1940年)

◆千葉寺時代、一村を支援していた白井珍三郎氏が、戦時中親戚である寺嶋家に疎開した際、お礼に贈られた作品。

画題	種類	制作年代
竹と蘭	衝立	昭和4年(1929年、21歳)

◆「倣…」を基に仕上げた襖絵、四季を描いた中の冬。南画としての極みに達したともいえるほどの作品。

画題	種類	制作年代
乾坤一舛亭図(冬)	襖絵	昭和20年代中期(40歳以降) 新寄託作品

千葉寺時代・昭和13年(1938年)～昭和33年(1958年)

◆30歳で千葉に移り住み、50歳で奄美に渡るまでの20年間、農業をしながら身近な風景や自然を描いた。

画題	種類	制作年代
牛をひく農夫	色紙	昭和19年頃(1944年、36歳)
牛車と農民	色紙	昭和20年頃(1945年、37歳)
山の田	色紙	昭和21年頃(1946年、38歳)
罎り	色紙	昭和22年頃(1947年、39歳)

奄美の一村 昭和33年(1958年)～昭和52年(1977年)

◆奄美時代の色紙

画題	種類	制作年代
与論島初冬	色紙	昭和30年代
与論島追想	色紙	昭和50年(1975年、67歳) 新寄託作品
キノボリトカゲ	色紙	昭和30年代、新寄託作品
花と蝶	色紙	昭和40年(1965年、57歳)

◆奄美で描いた鳥。

画題	種類	制作年代
岩上のアカヒゲ	額装	昭和34年(1959年、51歳)

◆緻密な写生を繰り返した「素描」

素描・鳥⑥	素描・エビ③	
素描・魚⑥	復刻肖像画 (新寄託作品)	素描・魚④

◆「この絵だけは誰にも譲れない、閻魔大王へのお土産なのですから…」と一村が語った2点。

画題	種類	制作年代
アダンの木	額装	昭和47・8年(64・5歳)：複製
奄美の杜⑥ ～クワズイモとソテツ	額装	昭和47・8年(64・5歳)：複製

◆「私も来年は70歳古稀です。古稀記念として絵をお贈りして、御高恩の万々に報いたいと考えております」との言葉が添えられた作品。

画題	種類	制作年代
エビと魚	額装	昭和51年頃(1976年、68歳)：複製

～お知らせ～

鹿児島県奄美パークイベント案内〈平成19年1月～3月〉

1 奄美の郷 イベント広場

- 初春唄あしび…………… 1月 3日(水)
- 奄美パーク春まつり
島ジマの響演…………… 2月18日(日)
- サンガツサンチ…………… 3月 4日(日)
- 奄美の郷ライブステージ…………… 3月11日(日)

2 田中一村記念 美術館 企画展示室

- 親子美術館探検…………… 1月 7日(日)
- 河原多美子「クレイアート展」…………… 1月14日(日)～28日(日)
- 美術講演…………… 2月 4日(日)
- 山久ひろお・清宮健二「大島海峡写真展」…2月 4日(日)～18日(日)
- 創作体験教室(人物画)…………… 2月24日(土)～25日(日)
- 奄美・横浜交流「遊展」…………… 3月 4日(日)～18日(日)

奄美パーク施設利用のご案内

奄美パークは、奄美の豊かな自然や島唄・八月踊り等の文化の紹介をすることにより、奄美の魅力を島内外の来館者に発信しています。奄美パークでは地域の方々と観光客との出会いを提供し、交流を促進するためにイベント広場等の貸し出しをしています。発表・練習は問いません。どうぞお気軽にご利用ください。詳しくは「奄美パーク施設利用案内」をご覧ください。

あなたも
デビュー
しませんか？



奄美パーク

〒894-0504 鹿児島県奄美市笠利町節田1834

■ 奄美パークホームページ <http://www.amamipark.com/>

■ 奄美の郷/TEL.0997-55-2333 FAX.0997-55-2612

■ 田中一村記念美術館/TEL.0997-55-2635 FAX.0997-55-2613

- 開園時間 / 9:00～18:00 (7・8月は9:00～19:00)
入園は、閉園時間の30分前までです。
- 休園日 / 毎月第1及び第3の水曜日(祝日の場合は翌日)
〈4月29日～5月5日、7月21日～8月31日は開園〉
- 施設観覧料 / 奄美の郷、田中一村記念美術館共通観覧料
大人…400円、高校・大学生…280円、
小・中学生…200円、幼児(小学生未満)…無料

奄美パーク周辺マップ

